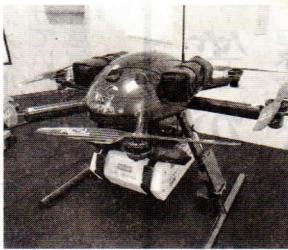


離島へドローン配送

8月に商用航路開設

香川の新興

ドローンを活用した物流事業に取り組むスタートアップ企業、かもめや（高松市）は4日、香川県三豊市で記者会見し、離



かもめやが離島の荷物配送に利用するドローン

島へ商品を空輸する商用定期航路を8月に開設すると発表した。同日、三豊市と連携協定を結び、行政の支援も受ける。

ドローンの物流事業は各地で実証試験が行われているが、離島を対象にした実用化は例がないという。

対象の離島は同市の沖合にある栗島で、コンビニエンスストアの商品を届ける。午前中に島民の注文を受けてドローンで

午後には届ける。ドローンの配送料金は500円。

三豊市の本土側で商品を積んで離陸し、離島で荷物を離す仕組みで、ドローンは全自動で往復する。悪天候以外の毎日、運航する。最大で1日3往復を想定している。

かもめやは今回の事業に続き、運べる荷物の量を増やすために大型ドローンの活用や、別の離島への航路の開設も計画している。

日本経済新聞2021.06.05

空飛ぶクルマ、屋外試験で安定飛行

「空飛ぶクルマ」の屋外試験飛行が4日、岡山県笠岡市の笠岡ふれあい空港で行われた。高度約30メートルに浮上し、全長550メートルを折り返して5分間安定して飛行した。プロジェクトを進める水島臨海工業地帯（岡山県倉敷市）周辺の企業有志は、瀬戸内の離島や中山間地へモノや人を運ぶために空飛ぶクルマやドローンが飛び交う将来像を描く。試験飛行に取り組んだのは岡山県倉敷市水島地域への航空宇宙産業クラスターの実現に向けた研究会である一般社団法人MASC。中国の「イーハン」社製の機体を用い、同社の協力を得て実現した。